

2025 年 12 月 26 日

国際的な環境格付け機関 CDP の 2025 年調査： 「気候変動」「水セキュリティ」の 2 分野で最高評価「A リスト」に初の同時選定

当社は、国際的な環境格付け機関である「CDP」が実施する 2025 年調査において、「気候変動」と「水セキュリティ」の 2 分野で最高評価の「A リスト」に選定されました。単一年度において、複数分野で「A リスト」に同時選定されるのはこれが初めてです。当社グループの、温室効果ガス(以下「GHG」)の排出量削減や水資源の管理などにおける優れた取組みと、透明性の高い情報開示姿勢が高く評価されました。



CDP2025「気候変動(Climate)」「水セキュリティ(Water)」で最高評価「A リスト」に選定

CDP とは、企業や自治体の環境への取り組みを調査・評価する国際的な非営利団体(NPO)です。投資家や企業の意思決定に影響を与える最も権威ある環境格付け機関の一つで、「気候変動」「水セキュリティ」「森林」の 3 分野で毎年評価を行い、特に優れた取り組みを示す企業を「A リスト」に選定しています。CDP の調査内容は、環境に関連する TCFD や IFRS といった国際的なフレームワークや基準と整合しており、企業の環境活動を評価するグローバルスタンダードとして広く認知されています。2024 年調査では、2 万社を超える対象企業の中で、A リスト入りした企業は 515 社で、全体のわずか 2%でした。^{※1}

当社は、2023 年に岩国事業所の自家発電設備をリニューアルし、年間 GHG 排出量を 4 割以上削減しました^{※2}。また、1970 年代に開発した中空糸型逆浸透(RO)膜は、長年にわたり中東湾岸諸国の海水淡水化プラントで採用され、安定的な真水の供給を可能にし水不足の解消に貢献してきました。こうした国内外における環境課題の解決を目指す取り組みや、環境データなどの積極的な情報開示により、このほど CDP から A リストに選定されました。

「サステナブル・ビジョン 2030」^{※3}において、2050 年のカーボンニュートラルの実現を掲げる当社グループは、今後も気候変動対策として、自家発電所の燃料転換や国内外の事業所・工場への再生可能エネルギーの導入を進めます。また、LIB(リチウムイオンバッテリー)セパレータ工場等向けの VOC(揮発性有機化合物)回収装置の積極的な展開や、再生可能エネルギー関連部材の幅広い提供を通じて社会全体の GHG 排出量削減に貢献します。さらに、水セキュリティ関連では、RO 膜の展開を推進し、2030 年度に 1000 万人分の水道水相当量の造水を目指しています。こうした社会課題の解決に向けた取り組みを通じて持続的な成長の実現を図るとともに、人と地球に求められるソリューションを創造し続けるグループを目指していきます。

※1：2025 年 4 月 17 日付 CDP プレスリリース：<https://www.cdp.net/ja/press-releases/cdp-a-list-2024>

※2：2023 年 10 月 12 日付 当社プレスリリース：https://www.toyobo.co.jp/news/2023/release_1538.html

※3：東洋紡グループ「サステナブル・ビジョン 2030」：https://www.toyobo.co.jp/sustainability/group_sustainability/vision/

■気候変動・水セキュリティに貢献する当社グループ製品・取り組みの例



ラベル台紙向け
「カミシャイン NEO®」
離型フィルム



中空糸型膜モジュール
「ホロセップ®BC膜」



VOC回収装置



燃料転換した岩国事業所の
自家火力発電所

資源循環プロジェクト

「資源循環プロジェクト」は、東洋紡が開発したポリエステル系合成紙「カミシャイン NEO®」を活用した、ラベル台紙の水平リサイクルを推進する取り組みです。当社を含む異業種 6 社※が共同で、飲料や日用品、医薬品などの製造工程において、製品にラベルを貼付した後に廃棄されるラベル台紙の廃棄ゼロを目指して活動しています。

2025 年には、世界包装機構(WPO: World Packaging Organization)主催の「ワールドスターコンテスト 2025」において、特別賞のサステナビリティ部門シルバー賞を受賞しました。

※(2025 年 12 月 26 日時点)日榮新化株式会社(本社:大阪府東大阪市・東京都千代田区、代表取締役社長:清水寛三)、シオノギファーマ株式会社(本社:大阪府摂津市、代表取締役社長:井宗康悦)、TOPPAN インフォメディア株式会社(本社:東京都港区、代表取締役執行役員社長:堀正史)、三井物産ケミカル株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:八田直)とヤマトボックスチャーター株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:平塚俊彦)

中空糸型膜モジュール「ホロセップ®BC®膜」

「ホロセップ®BC膜」は、東洋紡エムシー株式会社(本社:大阪市北区、代表取締役社長執行役員 CEO:森重 地加男、以下「東洋紡エムシー」)が製造・販売する分離膜モジュールです。海水淡水化用途で培った RO 膜技術を応用して開発されました。2024 年には、中国のバッテリーリサイクル大手の工場において、使用済み LIB からリチウムを回収する工程に採用されています。今後も、有価物の回収や産業排水の減容化、無排水化への応用を目指し、研究開発と拡販を進めていきます。

※ Brine Concentration の略

活性炭素繊維「K-FILTER®」を内蔵した VOC 回収装置

本装置は、工場などから排出される排気ガスに含まれる VOC を省エネルギーで除去し、高純度の有機溶剤として回収します。1974 年に当社が世界で初めて工業化に成功した活性炭素繊維「K-FILTER®」が、VOC を効果的に吸着します。VOC 回収装置は、LIB セパレータ製造工場や製薬、印刷工場など幅広い分野で採用されており、VOC の排出抑制を通じて GHG の排出削減に貢献しています。VOC 回収装置をはじめとする VOC 処理装置全体では、これまで国内外で 1,700 台以上の採用実績があります。

岩国事業所の自家火力発電所の燃料転換

2023 年に岩国事業所(山口県岩国市)の自家火力発電所をリニューアルし、LNG および古紙・廃プラスチック類を主原料とした固形燃料の RPF※1 に転換することで、同事業所の GHG の年間排出量を、従来の 4 割以上に相当する 8.0 万トン以上※2 削減しました。

※1 Refuse derived Paper & Plastic densified Fuel の略

※2 GHG 排出量は温対法調整後排出量の考えに基づきリニューアル前(2022 年度)との比較

以上

■お問い合わせ先

東洋紡株式会社 コーポレートコミュニケーション部 広報グループ

電話: 06-6348-4210 (本社) E-mail: pr_g@toyobo.jp